

令和 4 年度 さいたま市立与野南中学校 学校だより

み な み か ぜ



# 南 風

第 1 4 号

令和 5 年 3 月 1 日発行

<http://yonominami-j.saitama-city.ed.jp>

<学校教育目標> 進んで学ぶ生徒 心豊かな生徒 心身共に健康な生徒

## マスクどうする

校長 吉原 誠 士

ニュースで発表される感染者数を見る限り、新型コロナウイルス感染症の流行は下火になりつつあるようです。しかし、インフルエンザが以前の勢いを取り戻しているようでもあり、風邪のような症状も併せての学級閉鎖が生じているとの情報も聞こえてきます。コロナとインフル、2種類の混合感染も起こる中、予断を許さない状況だと言っても「慎重すぎる」と諷<sup>そし</sup>られることはないでしょう。もちろん感染症とその対策については、人により意見がいろいろであることも承知しています。

3年生には既に、「卒業式でのマスクの着用は各人の判断に任せること」をお知らせしてあります。これについて一部の方から「文部科学省は『式典全体を通じてマスクを外すことを基本とする』と謳<sup>うた</sup>っているのではないかと指摘がありました。確かにこの文言だけ見せられると「マスクを外せ」との指示に見えてしまいます。しかし、文部省科学省やさいたま市からの通知には、「基本とする」に続いて、「入退場や式辞・祝辞・送辞・答辞等、卒業証書授与場面」では「マスクを外して差し支えありません」とあります。つまり「マスクなしを強制するものではないこと」がはっきりしています。要約を間違え、聞こえのよい部分だけが切り取られると本来の趣旨に反する「同調圧力」となりかねないのです。本校では誤解を招かぬよう、「判断を任せる」と表現したのです。

「着用するのかもしれないのか、学校がはっきり決めてくれ」という声もあるようです。しかし、中学生は大人の社会に向けて着実に歩みを進めようという年代です。「たくさんの意見を集め」「これまでの状況も考慮しながら最終的な決定をする」という、これから必要とされる流れを身につけるためのよい練習になるでしょう。さらに、自分と異なる決定をした者に対しては複雑な感情や考えをもつことでしょう。葛藤に苦しむ中で問題になるのは、その表現の仕方です。当然、大人からの圧力にならない程度の“助言”も大切となります。学校では「共生」という観点に立つての指導をしていきますが、家庭で親子が話し合いをする機会にしていいただければ幸いです。何も3年生に限ったことではなく、1年生にも2年生にも同じ姿勢を求めます。

昨年度、保護者の方から提案があった「弁護士を招いてのSNS使用についての指導」は来年度に実施予定です。3年前の休校直前、学校だよりには「風評被害の防止」として、被害が延々と続く無責任な情報拡散をしないことを呼びかけていました。現在の本校でも情報端末の不適切な使用を心配しています。たとえ健全と見える情報であっても、新型コロナウイルス感染症に関して学校集団（生徒集団・PTA組織を含む保護者集団その他）が分断されることは望みません。文科省からの通達や本校からの文書の趣旨をご理解いただき、式当日を含めて日常生活においても個人の選択を尊重するようお願いいたします。